

中高一貫教育だより

平成30年10月26日（金） 第2号発行

1948年に創立された岩手県立軽米高校は今年70周年を迎え、先日関係の方々に多数お集まりいただき、盛大に記念式典を行いました。今後も軽米町の小・中・高の三者が緊密に連携し、地域に密着したより良い教育活動を展開していくよう努力して参りますので、地域のみなさま方には今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

この「中高一貫だより」は、軽米町が進める「中高一貫教育」を、広く軽米町民のみなさんにご理解していただくために発行しています。今年は年4回発行いたしますが、紙面での紹介は限られていますので、ぜひ機会を見つけて、軽米高校、軽米中学校にお気軽に足を運んでいただきたいと教職員一同願っています。

さて、平成13年、軽米高校と地域の中学校4校（軽米中・笹渡中・小軽米中・晴山中）との間で始まった「連携型中高一貫教育」は、今年で18年目を迎えました。18年目の今年度は特に、①英語・数学の中高交流授業、②部活動交流・特別活動交流（生徒会交流）、に力を入れて取り組んでいます。

これらの活動を展開する中で、次のような成果や効果が上がっています。

①交流授業を通して、軽中生の軽米高校の先生方への信頼感や安心感が増す。軽米高校の先生方の、軽中生への理解が増す。

- 中学校と高校の接続がよりスムーズにできる。
- その結果、軽米高校に進学した軽中生への学習指導や進路指導がよりきめ細かにできる。

②部活動交流・特別活動交流（生徒会交流）を通して

- **中学生と接することで高校生のリーダーシップや人間性がさらに鍛えられる。**
- **中学生が高校で成長し活躍する先輩を身近にみて、憧れや刺激を受ける（成長する）。**
- 中高合同で部活動をすることで、心・技・体などの競技力の向上も図れる。



7～10月の部活動の交流（中高合同練習）は、「バスケットボール部」「剣道部」「陸上競技部」を中心に行われました。今後、3月までに他の部でも行われる予定です。

9月の「中高一貫クリーン作戦」は、軽米中3年生と軽米高校1・2年生が一緒になって行う軽米の中高一貫の伝統の地域ボランティア活動です。軽米高校生のリードのもと熱心に行われました。今後は、中高の生徒会執行部の交流が予定されています。

軽米高校の先生方に感謝！ ～軽米中に来ていただいている軽米高校の先生方から、軽中生へメッセージをいただきました～

全国で「中高一貫教育」を行っている高校は、平成28年度の段階で595校です。うち、軽米町のような「連携型中高一貫教育」を行っている学校は84校です。

中高一貫に取り組む地域は、スタートの平成11年は全国で4つのみでした（軽米町は平成13年スタート、平成13年の中高一貫教育は全国で51校）。その後、中高一貫に取り組む地域は増加の一途をたどり、「同一学校型（中等教育学校）」「併設型」「連携型」と多種多様にもなっています。

岩手県では、軽米町以外では、葛巻町で平成14年（連携型）、一関市の一関一高～一関一高付属中＜新設＞で平成21年（併設型）、に中高一貫をスタートさせています。

高校の先生が中学校にきて授業をしてくれる学校（地域）は、全国でも、県内でも数少なく希少です。とても貴重でありがたいことです。軽米中としては、軽米高校や軽米町にとっても感謝しています。

交流授業で来てもらっている軽米高校の3人の先生方から軽米中生にメッセージをいただきましたので紹介します。

これまで軽米中学校を訪問し3年生のみなさんの授業をサポートしてきましたが、月日が経つにつれ段々と顔つきが受験生になってきたのかな、と感じています。しかし、私としてはまだまだ足りないと思います。高校へ入学すると授業のスピードは中学校よりも速くなります。数学に関して言うと、今よりも計算のスピードを速くしないと授業に追いつけなくなるかもしれません。なので、もっと受験生として自覚をもち、計算スピードを速くする練習をしていきましょう。12月には軽米町中高一貫基礎力テストというものがありますのでこれまで以上に勉強を頑張りましょう。交流授業もあとわずかではありますが、これからもよろしくお祈りします。

＜軽米高校 数学科 鎌田忠佳 先生＞



英語の授業に参加させてもらい、中学3年生のみなさんが英語学習に一生懸命に取り組む姿勢に感心しています。高校でも会えることを期待しています。さて、先日高校で開催した進路講演会のお話をみなさんにも紹介し、今後の学習アドバイスとしたいと思います。

1. 学習時間を1単位時間と考えず、10分×6、5分×12と考えましょう。すき間時間、細切れ時間を大切にしましょう。授業と授業の間や何気ない時間を10分、5分でもよいので学習する習慣をつけましょう。
2. スマホは魔物です。ある研究者によるとスマホを長時間使用することで脳の認知能力は低下するそうです。つまり、スマホ依存症になると学力は確実に低下します。スマホ使用時間は1日1時間以内に抑え、かつ学習する時は電源をOFFにしましょう。

＜軽米高校 英語科 石村隆彦 先生＞



今年から、新しい試みとして英作文の添削をさせてもらっています。また、授業の冒頭10分を使って、自由英作文のアドバイスをする時間も作っていただきました。少しの時間ですが、3年生のみなさんと英語を勉強できるのは楽しいです。今週の提出で4回目となりましたが、皆さんの書く英文が少しずつ具体的になってきて、成長を感じています。英語を使って話したり、書いたりする時の目的は、相手に自分の思っていることを適切に伝えることにあると思っています。簡単な英語の連続でも構わないのです。自分の考えをより具体的に、詳細まで伝えることを心がけてください。具体的な英作文には個性が表れます。それぞれコミュニケーションに欠かせないものです。中身の無い英作文にならないよう、具体的に書くことを意識していきましょう。また、相手に自分の考えを適切に伝えるためには、英語のルール（文法）を意識することも大切です。苦手意識がある人も多いと思いますが、徐々に慣れていきましょう。

夏休み明けから始まった交流授業ですが、熊谷先生の面白い授業を通して3年生の皆さんが楽しそうに英語を使っているのを見て元気をもらっています。少ししかお役に立てていませんが、残りの交流授業も楽しんでいきたいと思っています。＜軽米高校 英語科 サムソン沙織先生＞



【あとがき】

軽米町発行の「連携型中高一貫教育」のスタート時のパンフレットを改めて読んでみました。そこには、「連携型中高一貫教育に期待できること」は次のように記されています。

- (1) 教科指導においては、中学校と高校の教員が交流することで6年間を見通し、一貫した指導が可能になり、基礎的・基本的な学力の定着が期待できます。
- (2) 進路指導、生徒指導、特別活動、地域学習の分野で、連携した6年間の連続性の中で指導することにより生徒の健全な発達が期待できます。
- (3) 中学校と高校が円滑に接続することにより、高校入学時における過度な緊張等がなくなり、ゆとりある安定的な学校生活が期待できます。
- (4) 中学校と高校の教育課程を、連続し相互に補うものに工夫することで、生徒の興味関心に応じるとともにその能力、適性の伸長が期待できます。

「中高の6年間を通じた系統的・継続的指導を実施し、生徒の個性の伸張と学力の向上を図る」「中高を通じて地域との連携を深め、生徒の郷土に対する理解を図り、地域の発展に貢献する能力と態度を養う」という目的で行われている軽米町の中高一貫教育。その様子や成果の発信だけでなく、「軽米町の中高一貫の魅力」「軽米町の中高一貫の素晴らしさ」の発信もしていきたいと思っています。軽米町で取り組んでいる「中高一貫の魅力」に対しまして、地域のみなさんには今後とも、応援・ご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお祈りいたします。

＜発行：軽米中学校事務局（第2号発行担当）＞